

# 茨城うまいもんどころ味クラブと茨城野菜研究会・茨城果実研究会

## 東京中央卸売市場茨城県人会 合同の産地研修会を開催！

茨城うまいもんどころ味クラブ（会長：(株)花徳 菊池専務）と茨城野菜研究会（会長：東京千住青果(株)針谷次長）・茨城果実研究会（会長：東京多摩青果(株)永石副部長）・東京中央卸売市場茨城県人会（会長：東京多摩青果(株) 柏 代表取締役社長）は、共催で11月10日（木）(有)ナガタフーズの大根圃場、(株)小田喜商店の栗の加工・低温施設、茨城県農業総合センター山間地帯特産指導所の試験圃場を見学する産地研修会を実施し、卸、仲卸等54名が参加しました。

菊池会長からは、「茨城は福島第一原発事故以降、風評被害に苦しんでいたが、最近は明るい兆しが見えている。本日は意欲的に取り組んでいる農業法人と、県の研究機関の研修です。この研修により新しい産地とのつながりを深めたい」とあいさつがありました。

研修先であるナガタフーズの永田社長からは、「野菜の加工を中心に、新規の取組を模索している。農業はまだまだ伸びる分野だと思う」と、また小田喜商店の小田喜社長からは「日本人は、縄文時代から栗を食してきた。栗は低温貯蔵により甘みが増す。日本人の大好きな栗を、より美味しくするための努力は惜しまない」と挨拶があり、それぞれの圃場や加工施設を見学しました。

午後からは茨城県農業総合センター山間地帯特産指導所でセンターの取組等を聞いた後、りんごやお茶などの試験圃場を見学し、研究職員から話を聞きました。

卸、仲卸とも、産地へ来たことのない新採職員の参加も多く、本州で1台しかない大根の堀取り機に感激し、貯蔵栗の甘さに舌鼓を打ち、研究圃場での取組に聞き入っていました。



オープニングセレモニー（ナガタフーズ）



栗の選別機（小田喜商店）



所長挨拶（山間地帯特産指導所）



大根堀取り機（ナガタフーズ）



栗の試食（小田喜商店）



りんご試験圃場（農業総合センター）